



## 先生へ

直接的、生理的欲求などの場合、対象を示す「を」は「が」に代わることがある。

例1 (暑い日に、走ったあとで)

水が飲みたいです。

2 A: 何が食べたいですか。

B: そうですね。サンドイッチが食べたいです。

「Vたいんですが」を使って、婉曲的に要望を表したり、許可を求めたりすることができる。

例1 A: すみません、山田先生と話したいんですが。

B: はい、ちょっと待ってください。

2 A: 先生、お手洗いにいきたいんですが。

B: はい、いいですよ。

あまり親しくない相手や敬意を表すべき相手に対して、要望を聞くと、「～たいですか」は使えない。

願望の対象がものときは、「Nがほしいです」を使う。

「Vたいです」は、2人称や3人称の人の願望を表現することはできない、また、直接的な欲求表現で、相手や状況によっては使えないので、練習のとき注意すること。

### 【関連項目】

文-09 Nがほしいです

### 【「れんしゅう編」の練習】

10-5 手紙をください

10-8 わたしの将来